

聖水ぱあてい

前編



彼女の名前は「ぴすいな」ちゃん。
自分の特殊な性癖と
それに見合った特異体質を十分楽しむために
一人暮らしをしています。

すー！

すー！

両親や学校から
一人暮らしを反対されないよう
表向きには
普通の女子学生を演じていますが、
日々の健全なオナニーとは別に
溜まりに溜まった特殊性癖の抑圧を
解き放つように
月に一回、「聖水デー」として
変態プレイを楽しみます。



午前5時ごろ
眠りから覚めて
身体を起こします。

「ふわあぁ……」

昨日ワクワクして

なかなか眠れなかったなあ……

我慢できなくて

オナニーしちゃうとこだった☆」

自分の下半身辺りの

布団の状態を確認します。

「んー……昨日けっこう

水分摂ったんだけどなー……

膀胱にすっごい

オシッコ溜まってるしー

オネシヨしてもいいのに

真面目だなー私のカラダ♡」

そういうとなんの躊躇もなく

オシッコをしはじめました。

布団に黄色いシミが

広がってゆき、

気持ち良さそうに

放尿し続けます。

「へへー……起きてすぐの

オシッコお♡

お布団の上でしちやってるぅ♪

気持ちいいな……♡

あ……キチャイそう♪」

ふわあぁ……

ちょろろ……

ぴちゅ

ぴちゅ



「んあ……♡ちよつと
イっちゃう……っ☆」

かすかに

身体が震えて

緩やかにでていた

オシッコが

潮を吹いたように

勢いよく

飛び散ってゆきます。

ぴすいなちゃんは

特異体質として

性欲が高まると

「射尿」というカタチで

絶頂する女の子なのです。

「ふひい……」

もうイっちゃったあ♡

オシッコこんなに

飛び散らせて

イケナイ身体だなあ♪

そんな言葉とは裏腹に

何度も快感を味わえ、

常人よりも回数多くできるよう

尿の貯蔵も多くなっている

特異体質の身体が

一番のお気に入りなのです。



軽めの絶頂で
すっかり目が覚めたので
日課であるストレッチを
始めます。

スッポンポンになって
鏡を見ながら
身体を曲げている間も
少しずつ放尿します。
尿に関して特化した
この特異体質は
尿意がなくても
いつでも
放尿可能なのです。

「へへえ……」

ストレッチしながら

オシッコしちゃってる♡

とってもエッチだよお♡」

ヘンタイな自分が

大好きなぴすいなちゃんは

特にオナネタを

用意しなくても

鏡の前で放尿する

自分を眺めながら

オナニーできちゃうのです。

「んっっイッちゃう……」

軽めに抑えなきゃ……♡」



我慢でイキきる寸前で止めて、
絶頂を調整します。
軽く身体を震わせながら
オシッコも雫を飛び散らせる
程度に抑えられています。
「ふ……う……」
「我慢したあ……☆
『あそこ』に行く前に
イキまくってたら
バテちゃうもんねえ……」
絶頂を抑制する術を
身につけた
ぴすいなちゃん。
始めの頃は
好きなだけイキまくり、
翌日からしばらく
寝込む羽目になった
こともあり
自重を心がけるように
なりました。
「はあ……でも……
『朝ごはん』で
我慢した分の
反動が来るかもお……」
ぴすいなちゃんの
言うところの
『朝ごはん』を抜くべきか。
ささやかな葛藤に
悩んでいます。



聖水デーのお楽しみの一つ
特別な『朝ごはん』。

「やっぱりこれをやらないと

聖水デーの一日は始まらないよね♡」

コップを足元に置いて

その上に跨いで

上手にオシッコを注ぎ込むます。

「ふひ……い……」

部屋の真ん中でコップに

オシッコしてるなんてえ……

トイレがすぐ横に

あるのに♡

ヘンタイすぎて今にも

イッチャいそうだよお☆」

一般的に汚いと

されているオシッコが

コップに

満たされてゆく様は

ぴすいなちゃんにとって

魅惑的な光景。

「最初の頃はこれで

イキまくってたんだよね♡

少しは大人になれたって

ことかなあ？」

少し得意げになりながら

いよいよ『朝ごはん』の

準備が完了しました。

スマホで
カメラセット
して……っ♪

ちゃんと
動画撮れてるかなあ♡

またオナニーの
オカズが増えたね♡



コップを持つと

じんわりと温かな感触が

心地よく、

まだまだ濃いめの

少し泡立った黄色い液体を

ぴすいなちゃんは

うっとり眺めます。

「自分で出してこんな

眺めてワクワクしちゃうなんて

不思議な飲み物だねオシッコって♡」

オシッコを飲み物とする

一般的な考えと大きくズれることに

全く意に介さないぴすいなちゃん。

ストローを挿していざ実食です。

「自分のオシッコ飲んじゃうよぉ♡

それじゃいただきますー♡」

ストローからオシッコが

吸い上げられ、

ぴすいなちゃんの口腔に

広がります。

性欲により美味しく感じられ、

温かく、自分のオシッコを

朝ごはんとして

じっくり味わっていることを

自覚し興奮が高まっていきます。

そして……



ウキ♡

ウキ♡

おしっこ♡

ざー

ぴすいなのおしっこ♡

「んあああ♡♡♡

イグイグッイグッ♡♡♡

ストレッチ時の抑制された

絶頂分の反動もあり、

大きく身体を痙攣

させながら本日最大の

絶頂がやってきました。

「ほひっ♡♡しゅごいっ

しゅっごいのキてるっ

アタマずっこーんってなるう♡」

もはやこの絶頂は調整が

効かないほどに勢いが

ついてしまったようです。

先程飲んだオシッコが

再び尿道口から飛び出したかのように

大量のオシッコが飛び散り、

バケツをひっくり返したかのように

床を濡らしています。

「しゅきい♡オシッコだいしゅきい♡♡♡

ぴすいなオシッコ大好き♡♡♡」

快感を増幅させるように淫語を叫び、

圧倒的な気持ちよさを味わいます。

ビッ
ビッ
ビッ

おほ♡

ビッ
ビッ
ビッ

ほ♡
ひ♡

アッ♡
アッ♡
アッ♡

ビュッ

ビュッ



聖水デーは始まったばかり。
一区切りついたところで

部屋を綺麗にして、

お出かけ前にシャワーを浴びます。

「わくわくっ♡早く向こうでハメ外したいよぉ♡」

先程の絶頂でも性欲は
萎えることはないようです。
出先での様々なプレイを想像して
オナニーしたい欲求を堪えながら
身支度を整えることに専念します。



身体を拭いて髪を乾かし、
お気に入りの留め具でまとめます。
薄手のワンピースを着て
帽子を目深にかぶれば準備完了です。

「うふふ……♡
これ一枚でお出かけするの
ワクワクしちゃう♡
向こうに着くまで
一回オナチャうかも♡」

ズ……♡

とろー！

ワンピースをたくし上げると
むっちり張ったお尻と
すでに溢れ出た愛液を
まとわせた秘部が
露わになります。
まだ早朝とはいえ
誰かにバレて
しまうかもしれない興奮で
今にも性欲が爆発しそうです。
「えへへっ♡
それじゃー行きますかー♪」

早朝で誰もいないことをいいことに、通りの途中で目に入った電柱に近づいてその前に立ち、人の気配に気をつけながらワンスピースをまくり上げます。
犬や立ちションをしている男の人を見かけては羨ましいと思っていたぴすいなちゃんにとってマーキングは目的地までのお楽しみの一つなっているのです。
露わになった自分の下半身を見て性欲が高まってゆくを感じます。

女の子なのに
立ちションしてるー♡

ルン♡

ルン♡

ほんとヘンタイだな
わたしってばあ♪

ちよろろろ...

ビキッ

ビキ

ニ

「うーうーへんにマーキングしちゃお♡
ここはぴすいななテリトリー
なんだからねっ♪」

女の子の立ちションという

ぴすいなちゃんにとって魅惑的な
行為に抗えず放尿してしまいます。

「うー...もーイキそう...♡」

「うにゃー♡イクイクッ♡」
身体がぶるぶるっと震えると緩やかに放物線を描いていた尿が
勢いよく放射状に飛び散ってゆきます。
本日初めてのお外での尿絶頂は開放感も加わってとても気持ちいいようです。
「こ、こんなの人に見られたらどうしよう♡」
さらにスリルも味わえて最高のオナニーになりました。

「ふにいい……マーキングでイっちゃった♡
『先生』がここにいてたら発情して
電信柱に飛びついちゃうかも♡」
尿で濡れた下半身には気にも留めず
ワンピースを下ろして
目的地へ歩き出します。



えいっ♪

えいっ♪

目的地の広場にて
オシッコ的当てゲームに
興じるぴすいなちゃん。

「缶が倒れるまで

人が来ても

やめないからねっ♪」

ワンピースをまくり上げて

お尻丸出しのまま、

後ろ側の缶に目掛けて

勢いよく放尿します。

人が来るかもという

スリルを味わいながら、

排尿筋を鍛えるという

名目で行っています。

こちらも聖水デーの楽しみの

一つなのだそうです。



無事人目に晒されないうちに
缶を倒し、広場の中ほどまで
歩いていきます。

着いたー♪

「ふう……やっと着いた
ここまで結構オシッコ
出しちゃったなあ」
それでもあまり
困った様子はなく、
むしろ準備運動を
終えたかのように
上機嫌で建物に近づきます。
目的地である広場の
公衆トイレが聖水デーの
遊び場になっているのです。
「一人とも来てるかなあ……
まだ早いから私が一番だと
思うけど……」



当然のようにまっすぐ
男子トイレに向かいます。
中を覗き込むとやはり
誰もいません。

「やったあ一番のりー♪」

先に楽しんじゃおう♡」

興奮を抑えながら

トイレの状態を確かめます。

「えへへ……こんなに

綺麗にしてるのに

これから私たちのオシッコで

汚しちゃうなんて

ワクワクしちゃうなあ♪」

床や壁、便器などは基本的に

清潔にしているようですが

一部の小便器から

濃いアンモニア臭がします。

「んん……あの小便器だけ

詰まっちゃってるのかな？

先生どんな反応するだろ！」

悪臭にひるむどころか

これから繰り広げられる

ヘンタイプレイを想像し、

さらに性欲を高めてしまう
ぴすいなちゃんなのです。



「ぴーす♪先生、しーこちゃん先に着いたよー♡
先に始めちゃいまーす♪」

後から来る二人に自撮り画像を送ります。

「今日もいーっぱいオナニーのオカズ撮らなきゃ♡
前回のときのやつもすっごいオナニーが
捗っちゃったもんね♪」

自撮りのオナニー画像やエッチ動画をキチンと保存して
それ見ながらオナニーするのも大好きなのです。

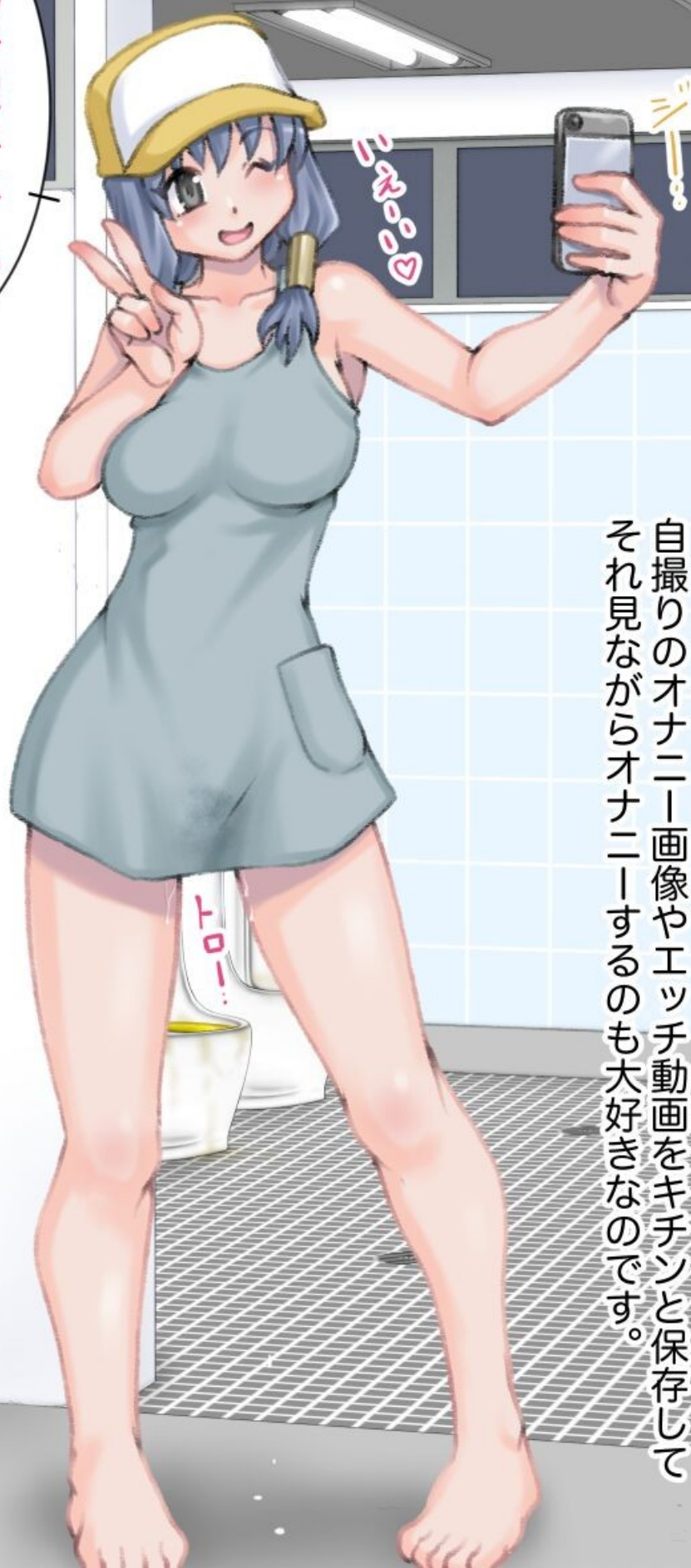
いーえー♡♡♡

エッチもオナニーも
できて
オカズもできちゃう
なんて
一石二鳥だね♪

「イエーイぴすいなちゃん見てるー？

これからオシッコいっぱい出しながらエッチとオナニー
しちゃうから、ぴすいなちゃんもコレ見ていっぱいオマンコ
ぐちよぐちよにしてオナニーしてねー♡」

明日の自分が今の自分を見ながらオナニーをしている……
そんな淫靡な想像でさらに股間を濡らしてゆきます。



いよいよ男子トイレの入りの前で衣服を脱ぎます。

「うー……壁で隠れてるっていいも

外でしかも男子トイレの前で裸になるなんて……

興奮しすぎておかしくなっちゃうよお♡」

素肌にあたる風が心地よく

このまま外へ駆け出したい気持ちをこらえて

用意されているダンボールに衣服を入れます。

「あたしって露出狂の素質もあるかもー

ここに来るまでにある程度又いてて良かった♪」

みんなに
私のオシッコオナニー
見てもらいたいナー♡



うー
ガマンガマン……

そんな言葉とは裏腹に陰部は愛液でドロドロになっています。
聖水デーのぴすいなちゃんはタガが外れがち。
もはや若さだけでは説明できないほどに
性欲は満ちあふれ、変態的欲求に従順になってしまいます。

んー♡

うわー♡
公衆便所でホントに
裸になってるぅ♪

ぴすいなは
どうしようもない
ヘンタイな
女の子なんですぅ♡

ぺた

ぺた

すっぽんぽんになって男性トイレに入っていくと
自分の変態性に興奮が収まりません。
「ああ……女の子なのに裸で
男子トイレを歩き回って……
今すぐにもオナニーしたい気分♡」
今日は気温が高いようなので
素っ裸でオナニーするには
絶好のコンディションようです。

床はほどよくひんやりしていて、
素足に感じる湿り気が、
放尿への抵抗意識を無くしてゆきます。
「へへー♡男子トイレを女の子のオシッコで
べちゃべちゃに汚しちゃうからねー♡
えっとお、初めのオシッコは
どこにしようかなー……あ、そーだ☆」
ふと思いついて小便器の方に向かいます。

「あっ♡これこれ♡
すっごい溜まってるなあ♡」
3つある小便器のうち、真ん中のものは
排水口が詰まっっているらしく、
フチの際まで小便が溜まっています。
「うわあ、やっぱり臭いがきつつい♡
相当熟成されてるかもー♪」
便器の黄ばみが長く放置されている
様子がうかがえます。
「こんなの見ちゃったら」でオシッコ
したくなっちゃうよねー♪」

お..
わも



「それじゃーココに新鮮なおシッコを
足してあげようっと♪」

「当然、小便器だから立ちションしなきゃね♪」

小陰唇を広げ、尿道を露わにして

男の子のようにおシッコをします。

小便器に溜まった小便がボコボコと泡立ち、

フチから溢れて床に小便が垂れ流されています。

「はああ……たまらないよぉ♡」

男の子みたいなおシッコして、

溜まった濃いおシッコを溢れさせて……」

ゾクゾクと変態行為に性欲がわき上がり、

そして……

ちよぽ

ぽ

ぽ

はあ…♡

はあ…♡



「ふわわ……イグイグイグッ♡
オシッコアクメきたあ♡♡」

緩やかなカーブを描いた放尿線は勢いづいて放射状に飛び散ってゆきます。

ひくつきに合わせるように

排尿筋が収縮し、小便器の杵を外して

辺り一面を絶頂射尿で濡らしてしまします。

「や、やっぱり小便秘っていいよお♡」

女の子がこうやってオシッコするのも

アリだと思うの♡

「なんで女子トイレに小便器ないの？」

射尿の快感を噛み締めるように味わいます。

イ
イ
イ

おー♡

 $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{4}$ 
$$V_{4x}$$

トチャツ



その時、中を
伺うように
女の子が入り口に
近寄ってきました。
「あ、しーごちゃん♡
おはよー♡」
「おはよー……
相変わらず
早いなー……」
「早く早く♡♡
一緒に遊ぼう♡」
聖水プレイメイト
である
しーごちゃん。
天真爛漫な
のによりちゃんと
対照的に
警戒心が強い
女の子です。
「ぴすいなってば
子供みたい……
でも、今日ばかりは
私も……ふふ……」
しーごちゃんも
ハメを外す気満々
のようです。

スッポンポンの友人を前にして
性欲が高まり、警戒心が薄れ、
しーこちゃんもまた
自然にスパッツを脱ぎだします。

「ああ……こんなところで
裸になるなんて……
いつやっても興奮する♡」

のによみ
先生は？

まだまだよー♪

する……

ぬちゃ……

「そーそー♪

いつ来てもワクワク
しちゃうよねえ♪
しーこちゃんも楽しみで
仕方なかったでしょ？」

「うん……ん」最近

今日のことばっか考えてた」

「えへへっ♡そうみたいだね
股間の♡が

そう言ってるもん♡」

フワ♡

公衆便所で
ハダカになって
チンポ勃起させて…

フワ♡

ビキ

ビキ…

ぴすいなちゃんと同じく

スッポンポンになった

しーこちゃんの股間には

見事にそそり立ったペニスと

ぷつくりとふくらんだ陰囊が。

しーこちゃんはふたなりの女の子なのです。

「**今日もチンポちゃん元気いっぱいだね♡**

初めてしーこちゃんに出会った時のこと思い出すなあ♪

「そーね……あのと看ほど自分の性欲の強さに

感謝したことなかつたわ♡おかげでぴすいなと

運命の出会いを果たせたんだもの……」

ああもう…
ワクワクが
止まんないわ♡

男子トイレで
オシッコするの
しつくり♡♡♡

オシッコするなら
やっぱり
小便器よね♪

ドキ:

ドキ:

ちよろろ

やっぱりチンポも
ここでオシッコ
してほしかったんだね♡

二人の出会いとは放課後の
男子トイレでのこと……
スキを見ては男子トイレでオシッコをする
悦びを見出していた、しーこちゃん。
この日も肌を露出しながら排尿を楽しめます。
「ああ……男子のトイレでオシッコしてる……
しかもオッパイを晒して……
誰か来るかもしれないのに
性欲が溢れて仕方ないの……♡」
性欲が不安を消し去り、自身のヘンタイ行為に
興奮してつい……

あ♡あ♡ビクビクッ

ビクッ

プッッ
プッッ

「ああ……つつキタっ♡おしっこ絶頂きたあ♡」

全身を駆け巡る快感の波と

それに呼応するように射精のような勢いで

尿が小便器に打ち付けられます。

ぴすいなちゃんと同じ体質で

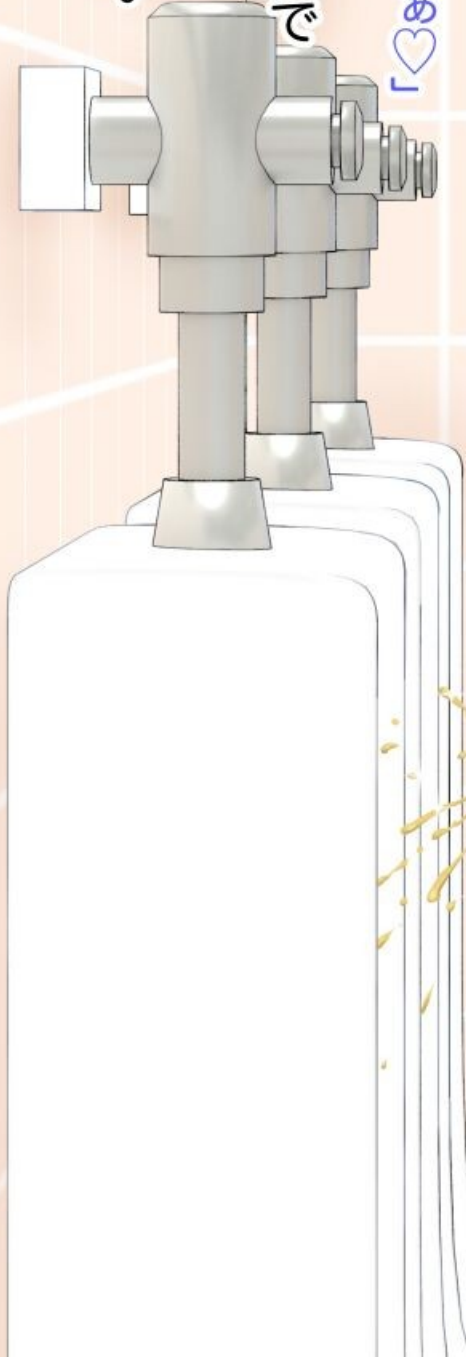
絶頂を伴った排尿ができてしまうのです。

「ごこんなの覚えちゃったら

オシッコが愛おしくなっちゃう……」

しーこちゃんにとってこの時はまだ

オシッコは不潔なものとして一線を画していました。



わたしってば
男子トイレで
サカっちゃって♡

んもう
あっちこっちに
ぶちまけちゃお♡

ビュッ

おしっこ絶頂を味わって性欲は最高潮♡
さらにいきり立つペニスを可愛がるため
大便器にもたれてオナニー開始です。

「ふふ……今日も男子トイレでドビュっちゃお♡
私のセーエキ誰が嗅いでくれるかなー♪」

色々な想像を膨らませながら

じつくりペニスをしごきあげます。

すると、トイレの入り口のドアが

開く音が聞こえました。

「ああ……もつすぐでイキそうなの……」

静かにしてなきゃ……」

□惜しそうにオナニーを中断して待つ……



男子の皆、ゴメンねー
上手にオシッコできなくて
こぼしちゃったかも♪

「男子ってばズルいよねえ」

こんな放尿し放題の便器があるなんて♡」

下半身を露わにして後ろ向きで

排尿をするぴすいなちゃん。

「ほらほらあ♡女の子が

こんないやらしいオシッコしてるよお♡」

誰か見て欲しいよお♡ぴすいなのおシッコお♡」

自ら興奮を高めてオシッコ絶頂に導きます。

「あああああつっ

イクのお♡オシッコでいつちやつのお♡

学校ではしたなくイクのおお♡♡」

ふんしゃああ...

ピチャ

ピチャ



「やだ……あの娘、隣のクラスの……
ぴすいなさんっていつのか……」
男子トイレの小便器で女子の喘ぎ声を聞き、
恐る恐るドアを開けて覗き見ます。
「ぴすいなさんもオシッコでイクんだ……
うれしい……私と一緒……♡」
もはや痛いくらいに勃起するペニスが
目の前の女の子を求めています。
放尿している姿に心を奪われてしまいました。
「あたしレズっ気なかったのに目覚めちゃった♡
あの娘とエッチ……なんだったら
あのオシッコぶっかけて欲しい……♡♡」

オシッコシャワー
だあ……♡

きれい……

ハァ……

ハァ……

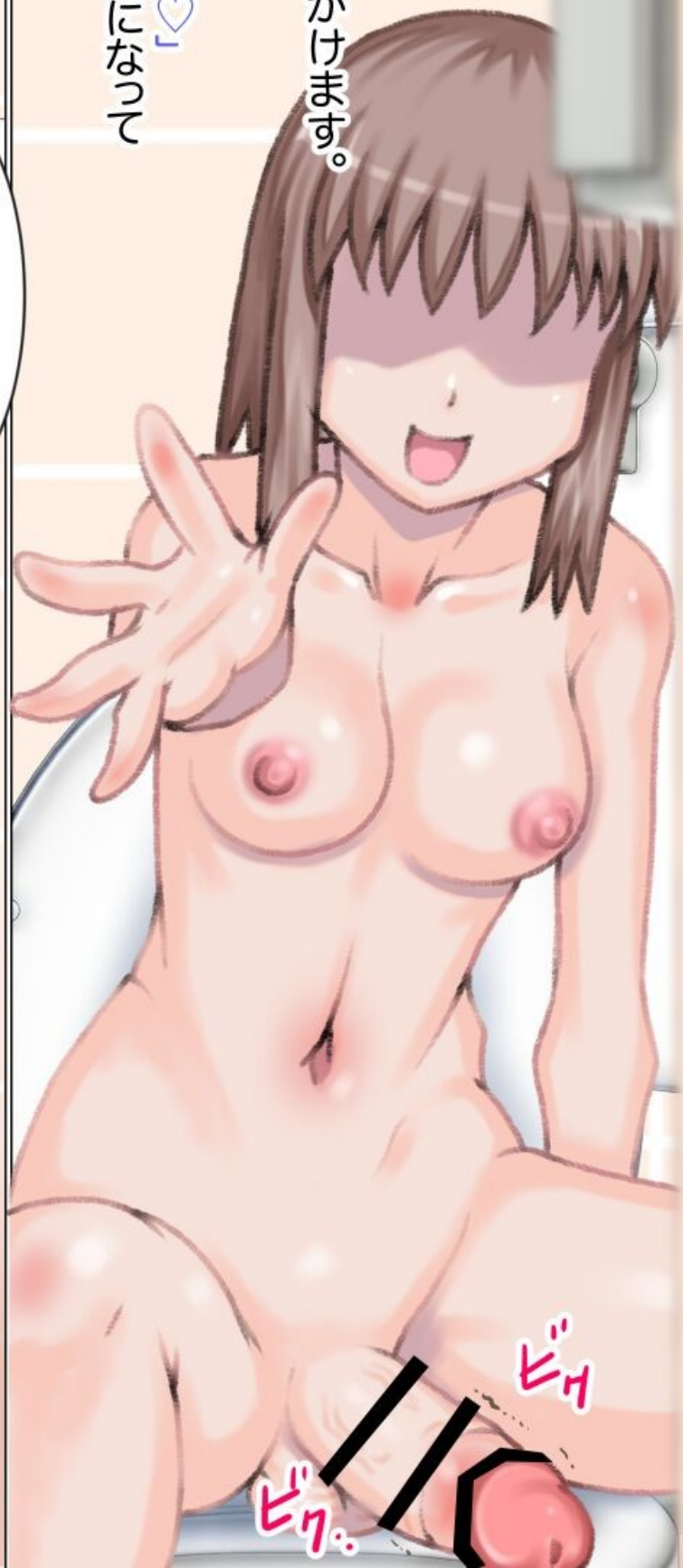
ムキ……

ムキ……

「いきなり開けたら警戒されるかも……
そっだ……♡」
「しーこちゃんはぴすいなちゃんと
対面するための準備を始めます。」

キィ：

大便器の仕切りドアを
ゆっくりと開けて
ぴすいなちゃんに話しかけます。
「はじめまして
ぴすいなさん……♡
わたし、しーちゃん♡」
ペニスを勃起させ、素っ裸になって
自己紹介します。



「知ってるよー♪
前からお仲間さんかなーって
気にしてたんだー♡
それで様子伺ってたの♡」
スッポンポンになって
自分の前に
姿を現してくれた
しーちゃん。
もはや疑う余地は
無いようです。
「ねーねー一緒に遊ぼう？
しーちゃんはお
シシッ♡好き？」

わっ♡
スッポンポンだあ♡

きれい……♡



「えへへ……しーこのオシッコ初デビュー見て♡
そういうとペニスを持ち上げて
自らオシッコを浴び始めました。
「ああ……なんでもっと早くしなかったのかな？
こんなにあつたかくて気持ちいいなんて♪
もうすっかりオシッコの虜のようです。」

自分にオシッコ
かけてる…

きもちいい
……♡

はあ…

びちちちち…

ちよろろ…

「だからあ……エソリヨしなくていいよ？
ぴすいさんのオシッコ、わたしにかけて？」
他人からオシッコを浴びせかけられる……
どんなに気持ちいいのだろうか？楽しみで仕方ありません。
「思い切ってしーこちゃんの後を尾けてよかった♡
これから二人でいっぱい楽しいね♪」
こうして二人はエッチし合う仲になったのです。」

今では大好物のオシッコ。

友人から直接オシッコを飲める悦びに

「ーこちゃんは幸福を感じずにはいられません。」

「ああ……待ちに待ってたぴすいな

オシッコお♡いつ飲んでも美味しい……♡」

「すっかりオシッコ中毒だね♡

先生みたいになっちゃうよ?」

オシッコが喉を通り、

飛び散った雫が

身体を濡らしてゆく……

一滴一滴が絶頂へと

導いてゆくようです。

「んん……っ

キちゃうっっ

我慢できないっ☆」

ぴすいな
オマンコ見ながら
飲めるなんて……♡

ドキ

ドキ

ゴ

ゴ

ぴち

ぴち

ちゅちゅ……
イ

フ

フ



「んんあああつイクイクツツ♡オシッコきたあ♡♡」
ペニスから射精のように跳ねながらオシッコを
撒き散らしてゆく、しーこちゃん。

ペニスの皮がムケきるのを堪えるように
亀頭の先端だけを覗かせて

今にも白濁汁に変わりそうな液体はいつまでも
綺麗な黄金の透明液のまま排出されます。

「いつ見てもすごいよねえ

射精ときっちり分けて

出るなんて♡」

あ♡

は♡

イク♡

とはいえ先走り汁は

分泌されており、

糸を引いたオシッコが

しーこちゃんの鈴口から垂れ下がっています。



セルフシャワーで
一息つーつー♡

んー♡
ほっとしちゃっ♡

いーな……

私もちんぽ
ほしーよ……

♪～

ちょろろ……

ピチャ

ピチャ

「ふー……気持ちよかった♡
残りのオシッコは自分にかーけよっ♡」
ペニスを持ち上げ、1発目の余りを
自身の身体にふりかけます。
「いつもお風呂場だけでしかできないから
遠慮なく自分の身体をオシッコで
汚せるなんていつもより気持ちよく
感じちゃうよ♡」

「いーな……おちんちんある人はあ
簡単にオシッコが浴びれるもんね」
「ぴすいなちゃんは羨ましそうに
しーこちゃんのオシッコ浴びを眺めます。
「私はマングリ返ししないと無理だもん
もっと楽に直接自分の出したてオシッコ
飲めたら良いのに……」
オシッコを飲むことを当然のように
捉えているぴすいなちゃんならではの
願望をつぶやいてしまします。」

ぴすいなのおくち便器
きたあ♪

「フー……」

「ねえねえ、じーちゃん。」

浴びてばかりいないで私にもちようだいよお」

ペニスからほとぼしるオシッコを見て

直飲みしたくなったぴすいなちゃん。

「そーだね。さつきもらったお返ししなきゃね♡」

オシッコを一旦止めて立ち上がり、

ぴすいなちゃんの目の前にペニスを向けます。

「じーちゃんのチンポ直出しオシッコお♡

いただきます♪」

ぴすいなちゃんが大きく口を開けて

ペニスを頼張るとすぐさまオシッコが

注ぎ込まれます。

「んぐ……ん……んぐ……んぐ……」

「ああ……友達のカチの中にオシッコしてる……♡
とってもヘンタイでワクワクするっ♡」

「コポポ……」

直出しオシッコ
美味しい……♡

「ゴ？」

「ゴ？」



「もうちよつとで射精もしちゃうとこだったよ
ぴすいななのクチ気持ちよすぎ♡」

「えー、ミックスジュース飲みたかったなあ」

ペニスから名残惜しそつに口を離し、
まだまだ立派に勃起した
ペニスを鑑賞します。

「そしたら先生怒るでしょー

あのオシッコも好きだけど

ザーメンも大好きなんだから♡

それにそれがわかってるから

ぴすいなも皮剥かなかったんでしょ♪

「えへへー……まーねー♪」

ぴすいなにペニスを見つめられ、

さらに固くなっていくと同時に

じわじわと皮が剥けてゆきます。

「ああ……もう皮がムケちゃうよ

ねえねえ、ムクだけならいいでしょ?」

「しょうがないなあ……」

先に食べなきゃ大丈夫なんじゃない?」
「わーい♡じゃあムくよお♡」



すっぴん♡♡♡♡♡

ズルリ...

ビッ

ビッ..

美味しそー♡

「亀頭を包んでいた皮を一気に剥くとこつてりとついた恥垢が露わになりました。」
「わぁ♡チンカスがこんなにいっぱい♡臭いもスゴいよぉ♡」
「今日のためにしつかり溜めといたからね♪」
「オナニーしてたっぶり精液も塗り込んでおいたから特濃チンカスになってるかも♪」
「友達の説明にゴクリと喉を鳴らしどんな味がするんだろうと期待に胸が膨らみます。」
「ちよ、ちよっただけ味見してもいいかな?」
「一舐めするだけ.....」
「目の前の歪なゴチソウに我慢がでなくなってきました。」
「だ、だめだってえ」
「先生に怒られちゃう.....」
「躊躇してしまします。」
「びすいなに亀頭を舐めてほしくて

「ごーっ!」

私を差し置いて二人で楽しんでえ。」

「コート一枚で後は裸という痴女のような姿で二人よりも年上の女性が現れました。」

「あ、のによみ先生」

「先生おそーい。もう少してしーこちゃんのチンカス先に食べるとこだったよ」

「んもう、先生がいつものもなんですけどヘンタイすぎますよ二人とも」

ピン
パン

二人が通う学校の英語を担当しているのによみ先生。

海外生活を経て、様々な性活動に触れ

レズビアンになり、今も独身で

自由奔放な性生活を楽しんでいます。

「びすいなさん、しーこさん

オシッコもザーメンもチンカスも

有限なんですからね。」

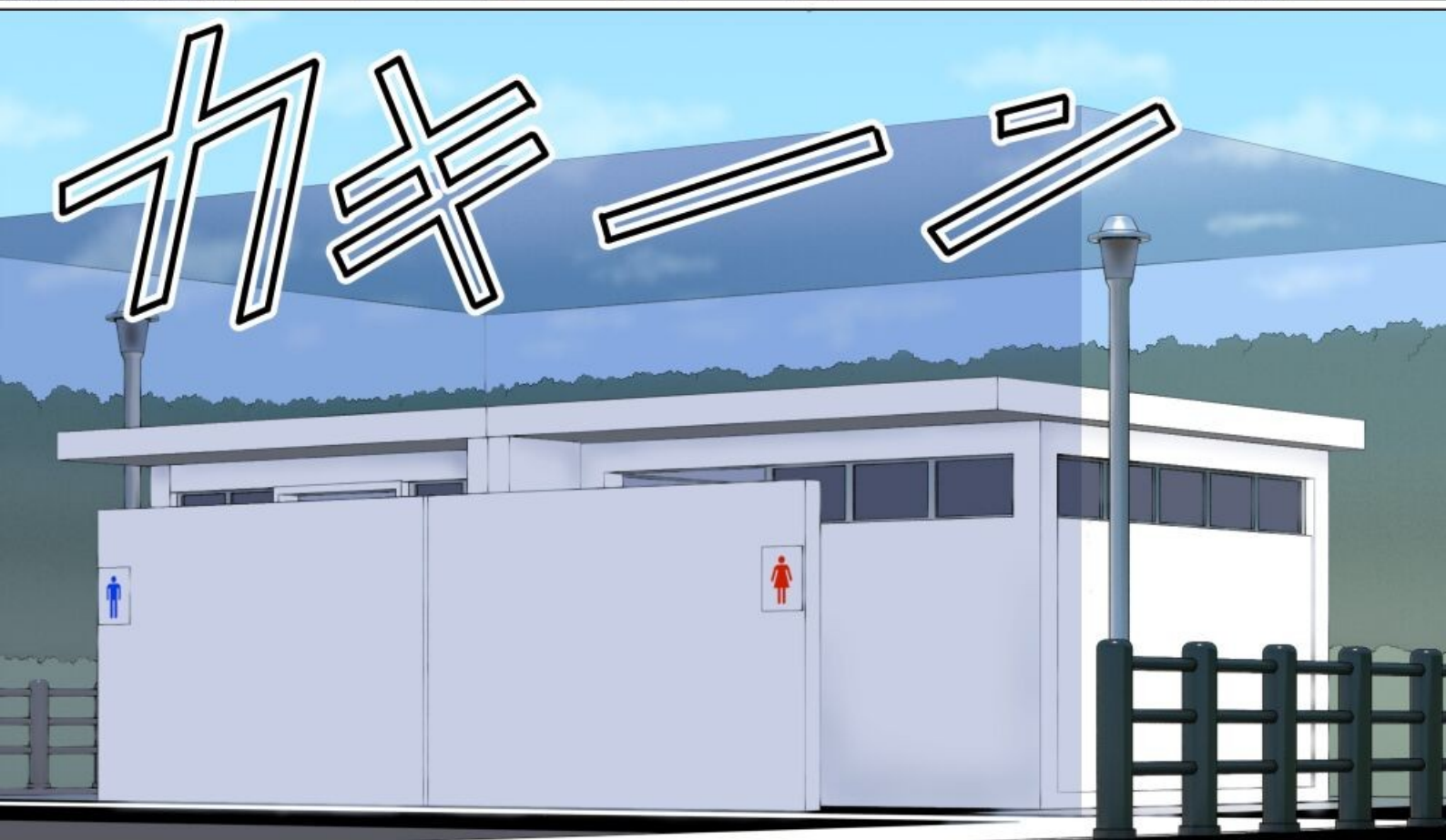
「きちんと分け分けして楽しませようね」

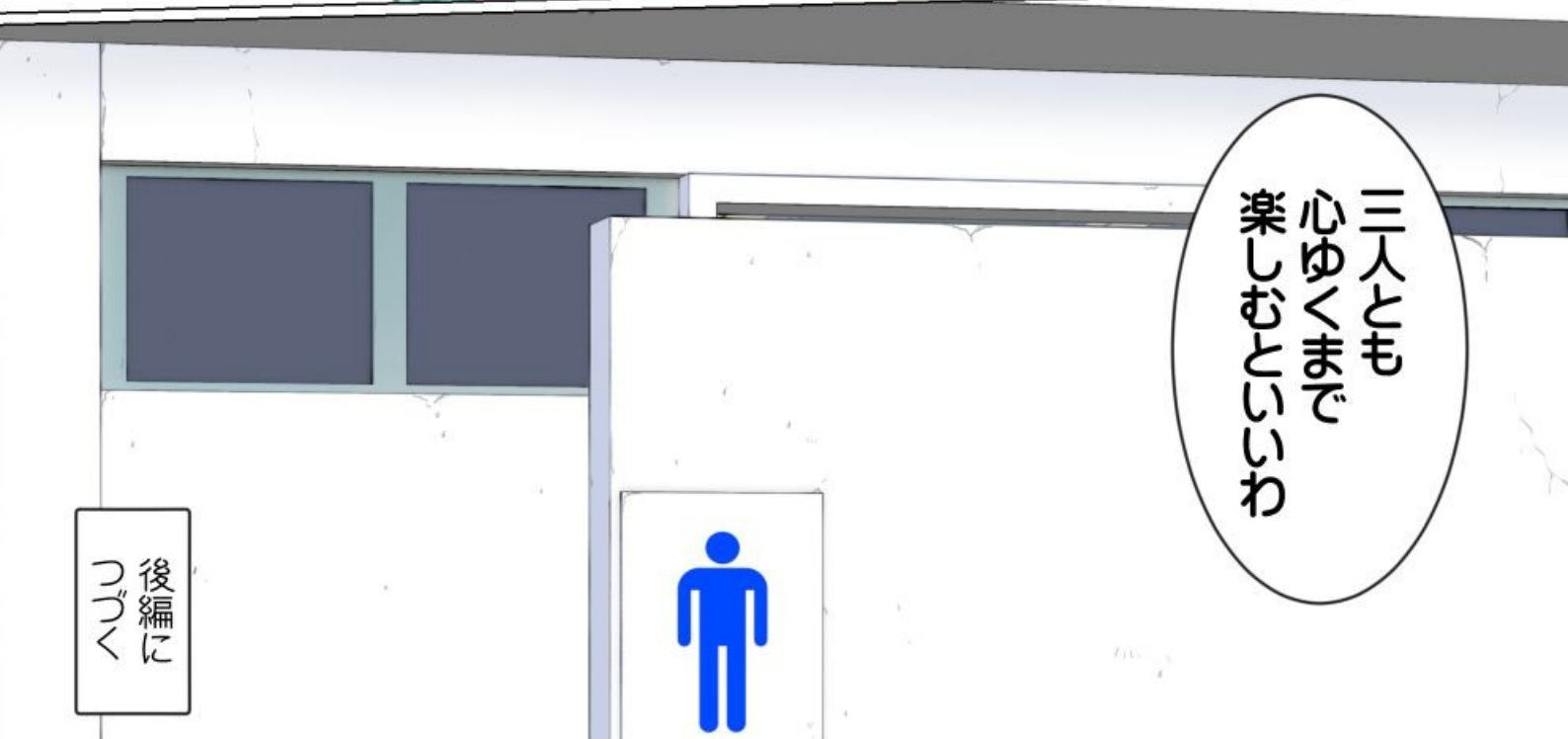
「口調は立派でも内容はヘンタイそのものの

のによみ先生を加えて

三人の聖水パーティーが本格的に始まります。







このたびは「聖水ばあてい前編」を
お買い上げいただきありがとうございます。

小スカプレイの集大成みたいなもの
描いてみました。
設定とか色々強引ですが
ヘンタイな女の子って……いいよね……
っていう感じのために描きました。

というわけで後編もお楽しみに。

2022年11月 のうじる定食屋



■18歳未満の方の購読・閲覧を
禁じます。
■この作品を無断で転載・複写
WEBなどで配布することは
厳禁です。